

原子力空母の 横須賀母港化とその後の動き (2016年2月10日現在)

2005年	10月	日米政府、原子力空母の母港化を発表、市長・市議会全員反対表明
2006年	4月-10月	4月、米国、原子力艦船の安全説明文書「ファクトシート」発表。6月蒲谷市長母港化容認。10月住民投票の会設立。
2007年	2月	住民投票の会、直接請求実施、住民投票を求む4万筆以上の署名は市議会で否決
	3月	横須賀市、米軍と「防災協定」調印、原子力艦船の災害も含むと明記
2008年	11月	初の日米合同原子力防災訓練実施（市民参加の合同訓練は、この年から実施せず）
	5月	住民投票の会、第2回請求実施、署名5万筆以上も市議会で否決
2009年	5月	ジョージ・ワシントン(GW)、横須賀への航海中に大火災、当初予定の8月19日を延期
	9月25日	GW入港、母港化はじまる
2010年	1月	米国からビュージェットサウンド海軍造船所などから原子力関係作業員5-600人来る
	3月	放射性廃棄物搬出、米軍通知を市は発表せず(米、量は1トンと公表、内容は公表せず)
2011年	6月	横須賀市長選、現職・蒲谷氏敗れ、吉田新市長に。
	3月-4月	政府、米との「核密約」があったことを認める。放射性廃棄物搬出、市は米軍通知を発表。
2012年	11月	北朝鮮の韓国砲撃に対応し、GW、中国が懸念する黄海で米韓合同演習
	3月21日	3/11ー東日本大震災。長期メンテナンス中のGWは原発事故を受け 緊急出港。近海でメンテナンス継続
2013年	4月-6月	4/20-横須賀へ再入港、メンテナンスを続行。6/8-放射性廃棄物を搬出（6/5に試験航海出港後同日寄港後）
	10月26日	原発事故後初の市主催の防災訓練、3キロ圏を対象とした屋内避難にとどまる。住民の被曝測定は実施。
2014年	12月15日	原発事故後初の日米合同防災訓練(5回目)、も「被害は基地内に留まると従来どおりの想定で。
	1月~4月	1月、定期メンテナンス(開始時に市への通知なし)。4/10-放射性廃棄物を搬出、母港化後4回目
2015年	5月26日	長期航海に出港。5/21の出港延期後、艦載機が厚木基地で夜間を含む大規模な離着陸訓練を実施。
	10月-12月	10/25-市主催の防災訓練。12/11-日米合同防災訓練 6回目。
2016年	1月~6月	1月、定期メンテ開始。5/23-放射性廃棄物を搬出。6/26-長期航海に出港。
	8月-9月	GW8月23日に入港、9月13日に再出港
2017年	11月中旬	フィリピンで台風被害、GWがレイテ島沖に出動、被災者支援。
	12月16日	12/5GW入港。12/16GWの艦載ヘリコプター、三浦市三崎に不時着し横転。
2018年	1月9日(木)	綾瀬市で空母艦載機(FA18E スーパーホーネット)、プレーキ部品を落下。
	1月15日(水)	米軍、2015年に空母をロナルド・レーガンに交代と発表。市は13年4月に要請した避難基準の見直しを年度内に、と国に要請。
2019年	5月3日(土)	放射性廃棄物を搬出(コンテナ4個)、母港化後6回目。運搬機は同日米国に向け出港。休日の作業だった。
	5月24日(土)	GW出港（5/19試験航海&5/23にいったん再入港後、長期航海へ）
2020年	10月17日(金)	米海軍基地のイージス駆逐艦を2隻追加と発表。(15年と17年に)
	10月25日(土)	「オスプレイ」横須賀に飛来。(17年には洋上空母と陸上の輸送機になると15年1月に発表)
2021年	11月25日(火)	GW入港、春までの長期停泊・メンテナンスが予定。「ロナルド・レーガン」への交代は、「おそらく8月」と司令官コメント。
	1月8日(金)	市長、国に要請中の避難基準の見直しについて「空母交代時期も考慮してほしい」とコメント
2022年	1月16日(土)	米イージス艦をさらに1隻追加と発表。現在11隻が17年夏に14隻に。(「乗員は合計千人増」「係留地の増や住宅新設不要」)
	3月26日(木)	本年の放射性廃棄物は横須賀では搬出せず、と判明。(交代の為の米国帰国時に持ち帰ると見られる)
2023年	5月	住民投票の会、「原子力空母交代の是非を問う1万人市民アンケート」を開始
	5月18日(月)	GW最後の出港(5/11に試験航海出港、5/15入港後)
2024年	5月28日(木)	吉田市長、原子力艦船災害対策の見直しを外務省に対し要請。(13年4月以降3回目。新空母入港迄にめどを。)
	6月18日(木)	イージス巡洋艦「チャンセラーズビル」入港。23年ぶりの増強、横須賀母港の米艦船は12隻に。17年夏迄の3隻追加予定のうち1隻目。
2025年	7月14日~20日	吉田市長、板橋市議会議員、米海軍施設(ワシントン州ビュージェットサウンド造船所等)を視察。
	7月30日(木)	厚木基地爆音訴訟(第4次)。東京高裁で一番に続き空母艦載機など米軍機については「国の支配及ばず」として飛行差し止め認めず
2026年	9月17日(木)	住民投票の会、「1万人市民アンケート」の結果発表。配備知っていた49.7%、安全対策十分9.3%、原子力空母配備賛成13.7%。
	9月28日(月)	11年4月に、空母GWが、日本の200カイリ内で放射性物質放出した事が判明。原子炉の過酷試験も横須賀入港前日に実施。
2027年		→11/2外務省より回答「12カイリ以遠の放出は米が厳重管理。急性出力訓練も商業原子炉と異なり安全性十分確保」と。
	10月1日(木)	原子力空母ロナルド・レーガン(RR)初入港。 (10/12(月・祝)に公開し、10/15(木)に出港)
2028年	10月18日(日)	安倍首相、RRに乘艦(相模湾で海上自衛隊艦隊後に)。10/22その2時間前に艦載の早期警戒機で火災があった事が判明。
	10月19日(月)	イージス駆逐艦「ベンフォールド」入港。横須賀母港の米艦船は13隻に。17年夏迄の3隻追加予定のうち2隻目。
2029年	10月22日(木)	政府、避難基準の厳格化を表明(河野防災担当相、具体的には11月以降の作業委員会)
	10月27日(火)	横須賀基地のイージス駆逐艦ラッセンが南シナ海の中国が埋め立てた人工島12カイリ内を航行。
2030年	11月6日(金)	内閣府作業委員会第1回会合。現行の100μシーベルトを「5μシーベルト」に変更。
	12月3日(木)	RR入港(10/18の艦載機の火災については「電気のショートで、消火に1分もかからない小さい事故」とコメント)。
2031年		→(12/29付け朝日新聞記事:事故区分は暫定で「クラスA」=200万ドル以上の損害、又は死者。原因調査中と)
	12月16日(水)	日米合同防災訓練 9回目、放射線を帯びた冷却水300リットルが海に流出、基地外には被害及ばないの想定で市民不参加。
2032年	1月6日(水)	北朝鮮が核実験。続いて、2/7(日)にはミサイルを発射(米軍は牽制の為1月下旬に、原子力空母ステニスを実地に派遣)
	2月4日(水)	内閣府、避難範囲試算提示。現行の3キロより狭い内容(屋内退避範囲試算①2.1キロ試算②2.9キロ。原発に比し極端に狭い。
2033年	2月10日(水)	市主催の防災訓練、市街を対象に市民の屋内避難。室内に入る前に屋外での被曝測定も実施。米軍不参加。(米が浜地区)
	2月10日現在	レーガンの定期メンテナンス作業は例年通り(時期・規模)で開始中とのこと(16/2/10基地対策課に確認)



